



# ハタハタ 日本海西部系群 令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

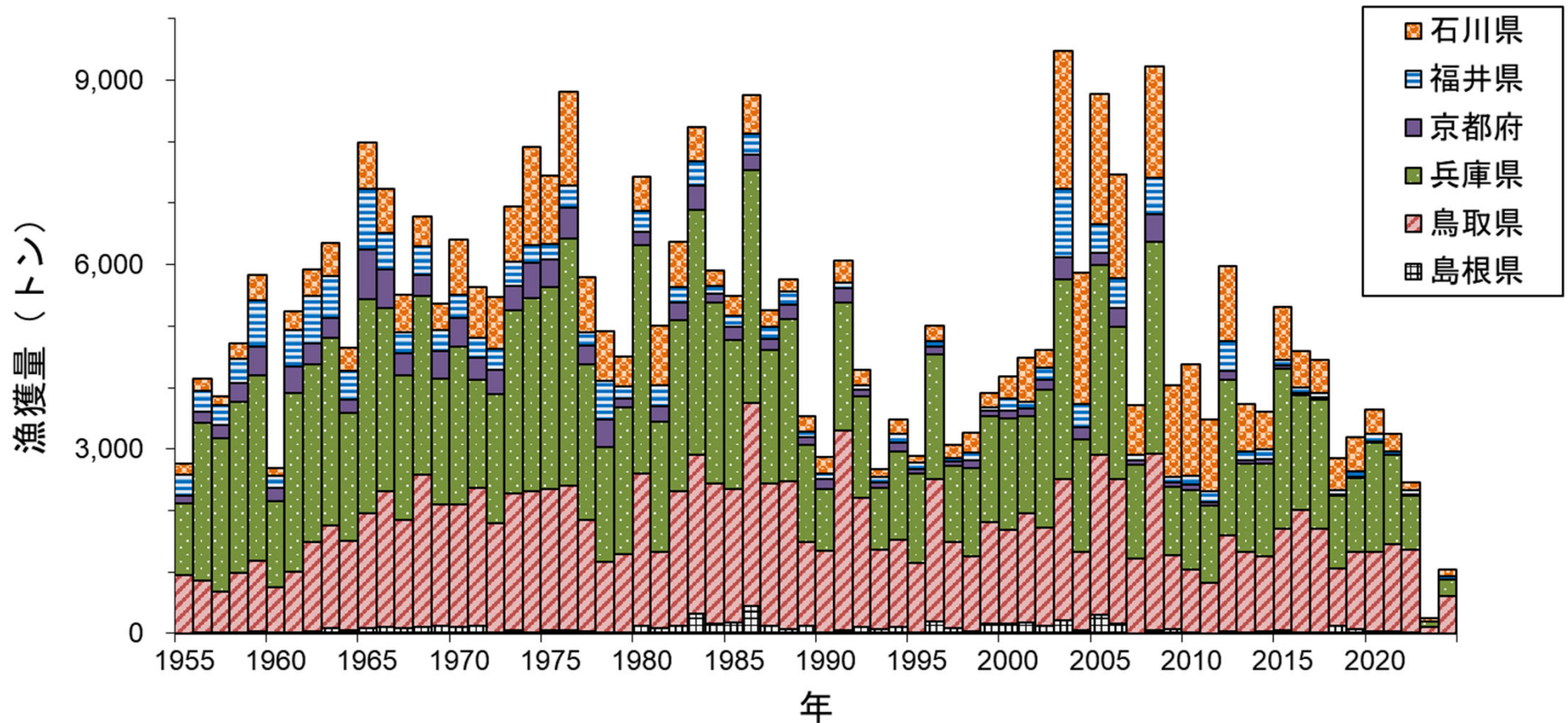


## 生物学的特性

- 寿命：5歳
- 成熟開始年齢：  
雄1歳（50%）、2歳（100%）  
雌2歳（100%）
- 産卵期・産卵場：12月、秋田県  
および青森県沿岸、朝鮮半島東  
岸
- 食性：端脚類、撓脚類、オキア  
ミ類、イカ類、魚類
- 捕食者：マダラ、アカガレイ

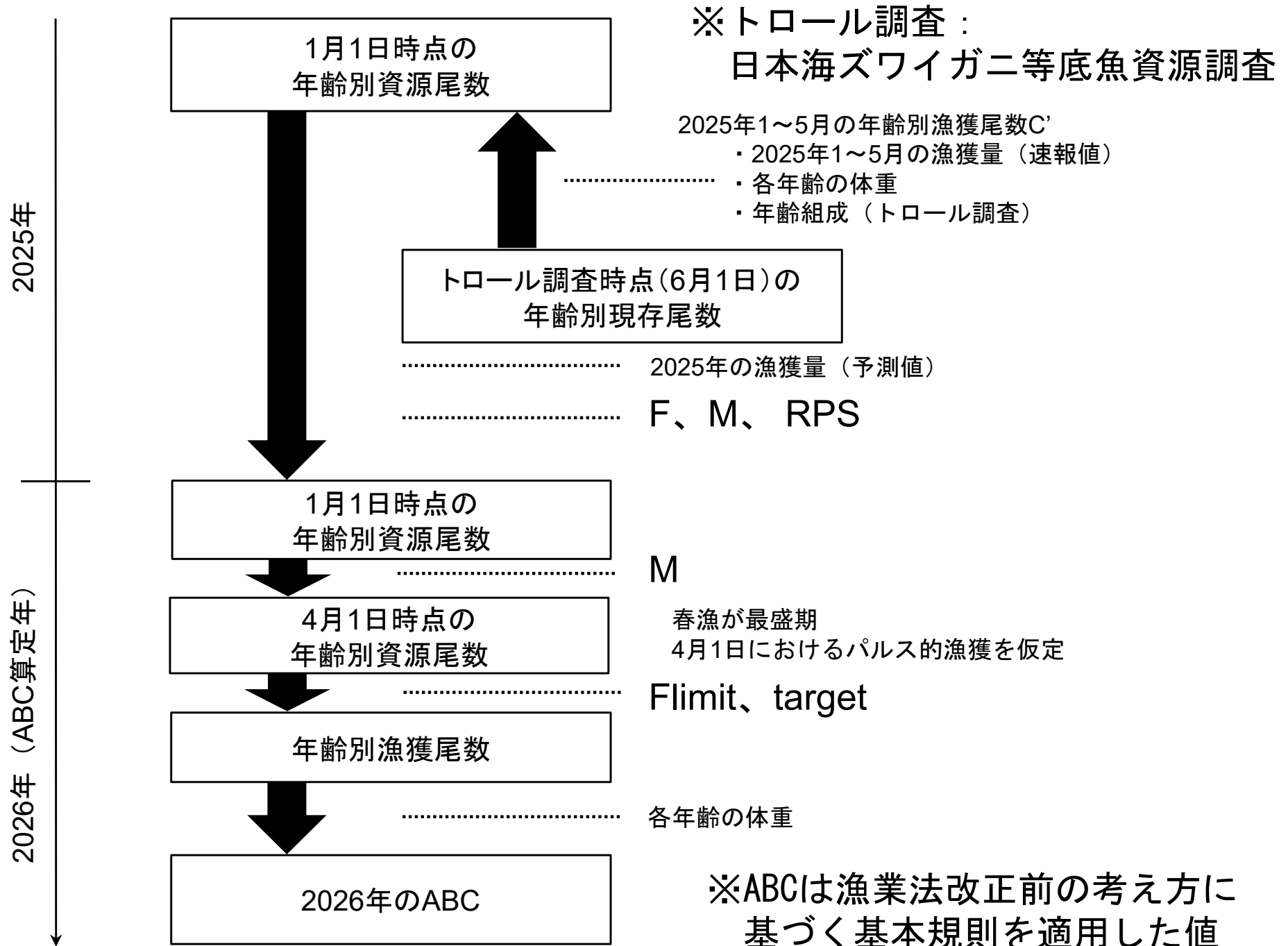
- 主漁期は3～5月、休漁期明けの9～10月にも漁獲されるが春より少ない

# 漁獲の動向

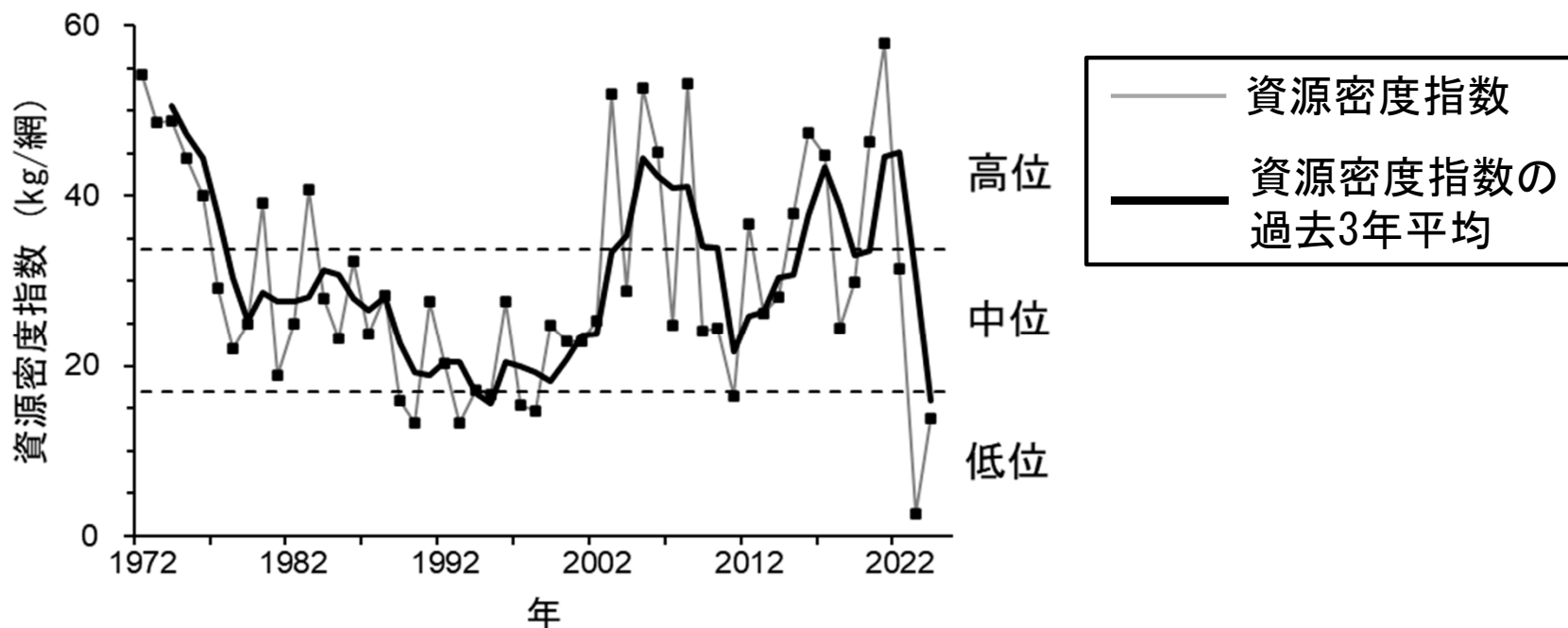


- 2024年の漁獲量：1,033トン（2023年：250トン）
- 近年の漁獲の大部分は鳥取県と兵庫県、全て沖合底びき網漁業（沖底）1そうびき
- 石川県、福井県、京都府、島根県は小型底びき網漁業が多い

# 資源評価の流れ



# 資源の動向①

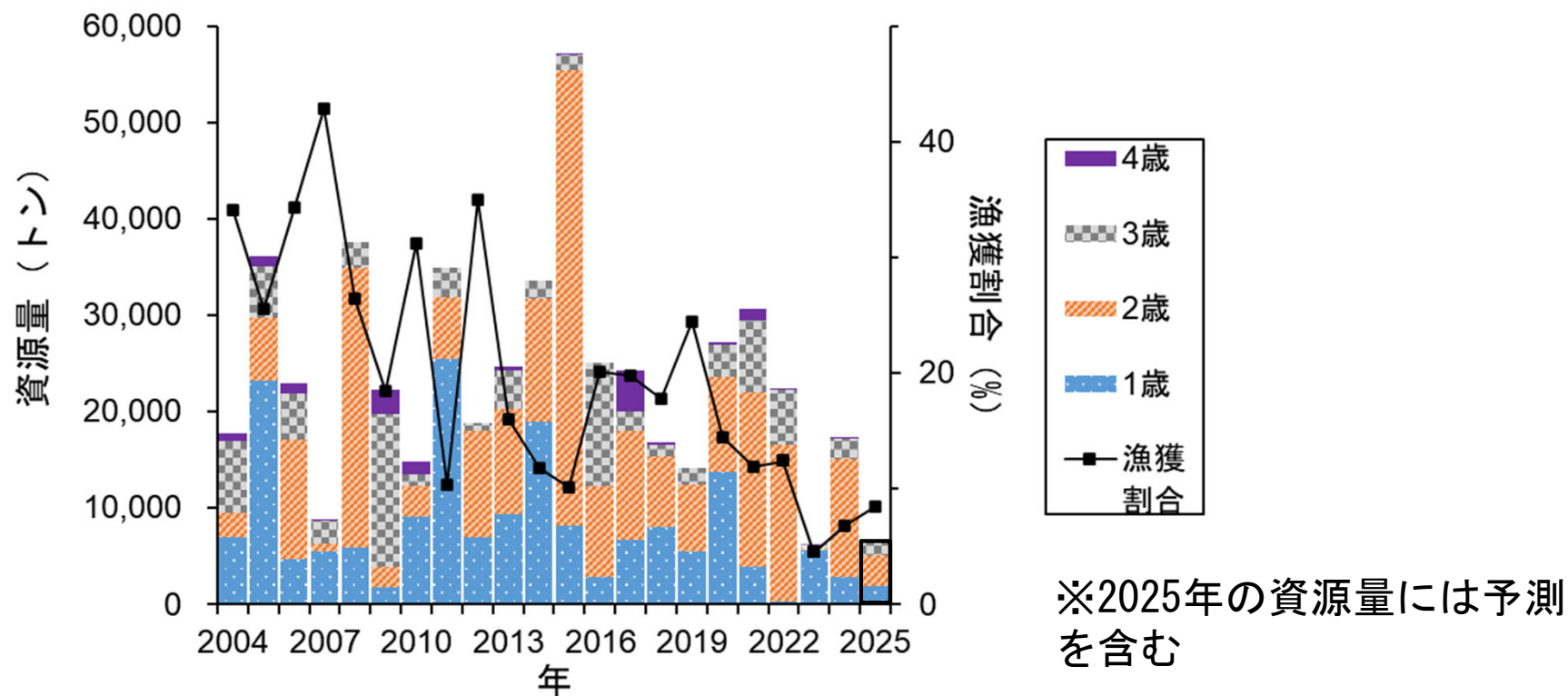


※水準区分 低位／中位：資源密度指数16.9、中位／高位：資源密度指数33.7  
(資源密度指数の過去3年平均の最高値(50.6)を3等分して算出)

- 沖底の資源密度指数：1970年代前半は50前後であったが、1993年に13.2となり、2003年以降は20～50前後で大きく増減、2024年は13.8
- 資源水準：直近3年間(2022～2024年)の資源密度指数の平均(15.9)から「低位」

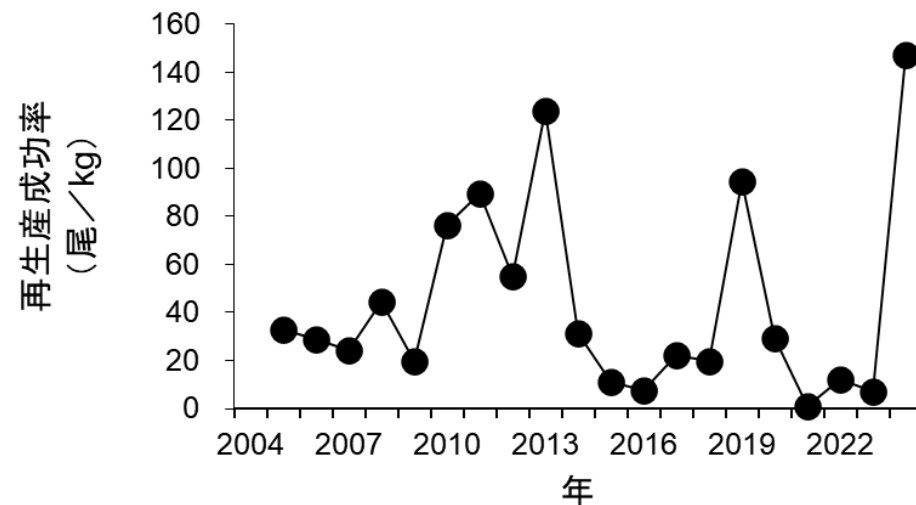
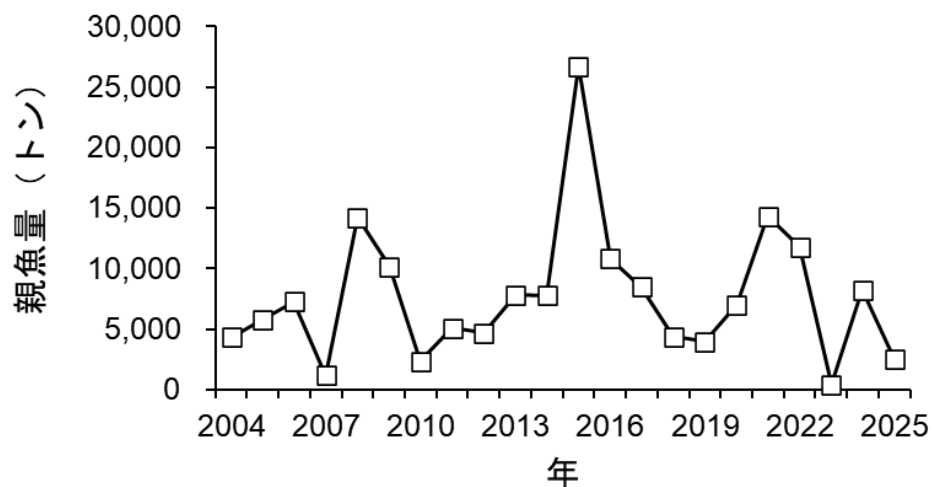
※資源密度指数：ハタハタが漁獲された年・月・漁区別における1網当たりの漁獲量の平均値

# 資源の動向②



- トロール調査に基づく資源量：2004年以降0.6万～5.7万トンの範囲で大きく変動
- 2025年資源量：0.7万トン
- 資源動向：直近5年間（2021～2025年）の資源量の推移から「減少」
- 漁獲割合：大きな変動を伴いつつ低下傾向を示しており、2025年は9%

# 資源の動向③



- トロール調査に基づく親魚量：0.04万～2.7万トンの範囲で推移、2025年は0.3万トン
- 再生産成功率：2010年以降高かったが、2014年に大きく低下。2014～2018年は低く推移、2019年は上昇、その後低下したものの、2024年は大きく上昇し過去最高の147.4（尾/kg）

※再生産成功率：単位親魚量当たりの加入量（尾/kg）、本系群では翌年加入量（1歳魚）を前年親魚量で除した値

# 資源評価のまとめ

- 沖底の資源密度指数（3年移動平均）より、資源水準は「低位」
- トロール調査により推定した資源量より、動向は「減少」

## 2026年ABC

管理基準	Target/ Limit	2026年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの増減%）
0.8・Fcurrent	Target	5.2	4.3	0.04 (-36%)
	Limit	6.5	5.3	0.06 (-20%)

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則1-3)-(3)により、 $F_{limit} = F_{current} \times \beta_2 (=0.8)$ で計算
- $F_{current}$  : 直近3年間（2023～2025年）の漁獲圧（F値）の平均
- 現状の漁獲圧（ $F_{current}=0.07$ ）で資源量は維持される
- 漁獲圧が現状より高まらないよう配慮し、資源量を維持すべき